

『青年海外協力隊は何をもたらしたか』

書籍発刊セミナー

2018年6月25日 JICA市ヶ谷

『青年海外協力隊は何をもたらしたか』

検討と展望

白川 千尋

(大阪大学大学院人間科学研究科)

各論(第I部)

□ 事前研修の分析

派遣前研修、技術補完研修、職種別研修(コミュニティ開発研修)など。

研修の内容・あり方と変遷、隊員と活動へのその効果などの分析。



事前研修は協力隊の事業目的である開発協力、人材育成の両面との関連で、どのような成果を挙げていると分析・評価し得るか？

各論(第III部)

□ 人材育成面における成果の分析

「定性的でプロセスを重視した、いわば動的な分析アプローチを採用して開発協力の効果を分析する」(p.9)。

「隊員への意識調査に基づく定量的データやインタビューによる定性的データを用いて」(p.11)人材育成の効果を分析。



プロセス分析の人材育成面への適用。

帰国隊員のキャリアパスに関するプロセス分析など。

総論

□ 隊員活動の捉え方(1)

- ①個々の隊員の活動を分析の対象とする。
- ②複数の隊員の活動からなるある種のまとめ(「活動群」)を分析の対象とする(グループ型派遣、同一派遣先への数代にわたる派遣など)。



第Ⅱ部は②、第Ⅲ部の分析の基礎単位は主に①。



①、②のどちらをとるかによって活動成果の分析・評価のあり方も変わってくる？

事前研修などを通じて隊員にそのことを伝える必要性。

総論

□ 隊員の活動の捉え方(2)

「協力隊を一括してとらえるのではなく、派遣地域ごとの社会的・文化的特性を踏まえた上で『成果』を議論する視角が、協力隊事業をとらえる上でより精度の高い実態把握につながるのではないだろうか」(p.197)。

①派遣地域・国別の分析(第8章など)。

②活動形態別の分析:

村落型、教室型、現場勤務型、本庁・試験場型(金子 1999:231)。

③コミュニケーション形態による類型化とそれに基づく分析:

「知識教授・指導」型、「ファシリテーション・共創」型。



総論／文献

□ 隊員の活動の捉え方(2)

②、③の類型自体の妥当性の検討。

②、③に基づく協力隊事業の成果分析(開発協力、人材育成の両面に関して)によってみえてくるものとは何か？

□ 文献

金子洋三、1999、「青年海外協力隊と国連ボランティア」、内海成治・入江幸男・水野義之編、『ボランティア学を学ぶ人のために』、世界思想社、pp.218-239。